

国際スポーツイベントに関する調査

～ 2019年にラグビーW杯、ハンドボール世界選手権が熊本で開催 ～

熊本県では2019年にラグビーワールドカップ日本大会における予選数試合と、女子ハンドボール世界選手権全試合の開催が予定されている。ラグビーワールドカップは昨年のイングランド大会における日本チームの活躍が記憶に新しく、ハンドボール世界選手権では1997年に男子大会を熊本県で開催した実績がある。同じ年、しかも立て続けに県内で国際的なスポーツイベントが開催されることになる。そこで、このような大会が熊本で開催された場合の効果や、熊本県民は開催に対してどのように考えているのかなどを調査し、大会開催に向けた課題の確認を行いたい。なお、熊本県民に対する主なアンケート結果は、以下の通り。

国際スポーツイベントに関するアンケート調査結果のポイント

1. 熊本で2つの国際的なスポーツイベントが開催されることを知っているかとの問いに対し、「開催時期まで知っている」と「開催されることを知っている」の合計が、ラグビーで57.9%、ハンドボールで33.6%。「知らない」がラグビー35.6%、ハンドボール60.8%となった。
2. このようなスポーツイベントに興味・関心があるかとの問いに対し、「非常にある」が7.4%、「ある程度ある」が44.9%で、過半数が興味を持っている。
3. 熊本でスポーツイベントが開催された場合に観戦したいか否かを尋ねてみたところ、ラグビーは「競技場で観戦したい」17.5%を含め、何らかの形で観戦したいと考えている人が39.1%となり、ハンドボールは「競技場で観戦したい」11.3%を含め、何らかの形で観戦したいと考えている人が29.5%となった。
4. 熊本で、このような国際的なスポーツイベントが実施されると何か影響があるか、との問いに対し、「良い影響がある」29.6%、「やや良い影響がある」50.4%となり、どちらかといえばよい影響があると考える人が80%に達している。

【アンケート調査の概要】

調査対象 熊本県在住の男女
 調査方法 調査会社登録モニターへのネット調査
 (調査会社：マクロミル)
 調査時期 2016年8月19日～28日
 有効回答 1,030人

回答者の属性

年代	男(人)	女(人)
20代	103	103
30代	103	103
40代	103	103
50代	103	103
60代以上	103	103
合計	515	515

1. ラグビーワールドカップについて

最初に、開催されるスポーツイベントがどのようなものか理解しておきたい。

まず、ラグビーワールドカップは4年に1度開催され、全体では200万人以上の観客が見込める世界でも有数のイベントである。2015年に開催されたイングランド大会では、海外からの観客の平均滞在日数は欧州内3日、オセアニア24日、アフリカ22日、その他の地域20日とされており、観光面での効果も大きい。そこで、このイングランド大会と2019年に開催される日本大会を比較してみたのでご確認いただきたい（図表1）。

次に、開催都市での主な取り組みを見てみると、まずキャンプ地の提供があげられる。各チームは試合実施数日前に試合会場周辺に到着し、練習や調整を行って試合に臨む。試合終了後は次の会場周辺に移動し同様にキャンプを行う。イングランド大会では41か所でキャンプの受け入れを行った。キャンプ地には、練習場やプール、ジム、宿泊施設などの設備が必要で、代表チームを歓迎する記念行事や、地域の子供と触れ合う機会が設けられた。なお、熊本での試合会場は熊本県民総合運動公園陸上競技場（うまかなよかなスタジアム）となっている。

また、開催地では、パブリック・ビューイング機能などを持たせたファンゾーンの設置も必要となる。大会ガイドラインによると収容人数は5,000人以上で入場は無料、大型スクリーンやステージ、ラグビー関連団体による体験コーナーを設置することなどが決められている。イングランド大会では15か所に設置され、来場者は合計で100万人以上に上った。開催日数は場所により異なるが2日から20日程度となっている。

開催都市は、街路などに共通デザインののぼり旗や横断幕を設置し、主要駅から試合会場・ファンゾーンまでは案内人を配置する。

大会運営に当たり、大量のボランティアも必要となる。イングランド大会では最終的に6,000名（18歳～86歳）が選抜された。各地のラグビークラブから75%、一般から25%を募集し、ボランティア一人当たり3.8回、1回あたり10.5時間従事した。近年は、熊本県においても熊本城マラソンなどで多数の方がボランティアを経験しており、その土壌を生かして募集を行うと思われる。

図表1 ラグビーワールドカップ比較

	2015年イングランド大会	2019年日本大会
開催時期	2015年9月18日～10月31日	2019年9月20日～11月2日
開催都市	11都市13会場	12都市12会場
試合数等	48試合（20チーム）	48試合（20チーム）熊本は予選2～3試合
観客数	274万人うち海外46万人	200万人うち海外41万人（見込み）
その他	-	アジアで初開催のラグビーワールドカップ

2. ハンドボール世界選手権大会について

ハンドボール世界選手権は2年に1度開催され、熊本県では1997年男子世界選手権大会の開催実績がある。2019年はこれを参考に、さらに発展させた形での開催になると思われる。そこで1997年大会の概要をふり返ってみる(図表2)。

この大会はヨーロッパ以外の国で初めて開催された男子ハンドボール世界選手権大会であり、熊本で初めて開催されたスポーツの世界大会でもあった。広報活動として、シンボルマーク、マスコットキャラクターの策定や、プレ大会(1995年7月)、親善ハンドボール大会(1996年11月)等の実施、テーマソング・応援歌の選定に加えて、新聞、テレビ、ラジオによる広報も行っている。

さらに、熊本市内には1年前からマスコットキャラクター看板や残日表示板を掲示、大会直前には中心商店街への吊り看板と参加国の国旗を掲示、熊本空港・JR熊本駅等へ国旗掲示などを行った。

試合は全て熊本県内4会場で実施、16日間に80試合が開催され288,955人が観戦した。九州新幹線が未開通で、LCCの運航もなかった当時としては、相当の動員であったと思われる。ちなみに95年アイスランド大会の観戦者は108,000人、93年スウェーデン大会の観戦者は177,238人となっている。

2019年の会場はパークドーム熊本(県民総合運動公園屋内運動広場)、アクアドームくまもと(熊本市総合屋内プール)、山鹿市総合体育館、八代市総合体育館の4会場となっており、期間中はほぼ毎日試合が開催され、全部で88試合が予定されている。

図表2 ハンドボール世界選手権大会比較

	1997年男子世界選手権大会	2019年女子世界選手権大会
開催時期	1997年5月17日～6月1日	2019年11月下旬～12月中旬
開催都市	熊本県内3都市4会場	熊本県内3都市4会場
試合数等	予選60試合、決勝20試合(24チーム)	予選60試合、決勝28試合(24チーム) ※決勝28試合は順位決定戦を含む
観客数	28万8,955人	-
ボランティア	1,879人	-

3. 熊本で開催される効果

では実際に熊本県においてこのような大会が開催された場合には、どのような効果が見込めるのであろうか？

ラグビーワールドカップはオリンピック、サッカーワールドカップに次ぐ国際スポーツイベントとして認識されており、2015年イングランド大会における経済効果は最大で22億300万ポンド（1ポンド=140円として3,084億2,000万円）とみられている（Ernst&Young社「The economic impact of Rugby World Cup 2015」より）。

2019年日本大会に関しては、日本政策投資銀行九州支店が実施した、「ラグビーワールドカップ2019日本大会の九州における経済効果試算」において、九州3県（熊本、福岡、大分）の3都市でそれぞれ3試合が実施された場合、九州全体で直接効果が210億円、1次波及効果が83億円、2次波及効果が57億円で、合計350億円との推計がなされている。また、同行によるとラグビーワールドカップ2019年日本大会全体の経済効果は、2,330億円と推計している。ラグビーワールドカップは開催地が日本全国に分散しており、期間も40日以上と長期間にわたり開催される。試合は主に週末となるため、観客は空いた時間で開催地近辺での観光などを行うケースが多く、そこでの消費も期待できる。

一方、1997年男子ハンドボール世界選手権大会においては、大会の直接投資額は約43億7,000万円、経済波及効果は約64億4,000万円と推計されている（熊本県統計調査課）。

経済効果以外にも、この男子ハンドボール世界選手権大会では、各国チームと県民との交流なども図られていた。例えば企業単位で各国応援団を結成したり、学校観戦（小学生、中学生）なども実施されており、学校観戦により入場した生徒は約7万人に上っている。2019年は前回以上の交流が期待されている。

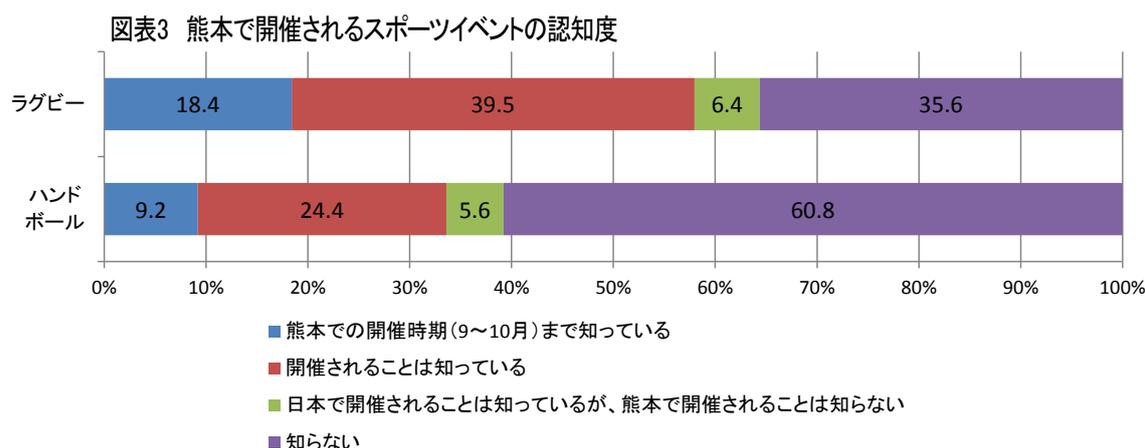
4. 熊本県民へのアンケート調査

この2つのスポーツイベントが熊本で開催されることにつき、熊本県在住の男女1,030人を対象にアンケートを実施したところ以下の結果となった。

(1) スポーツイベントの認知度と観戦経験

①認知度

最初に、熊本で2つの国際的なスポーツイベントが開催されることを知っているか尋ねたところ、「開催時期まで知っている」と「開催されることを知っている」の合計が、ラグビーで57.9%、ハンドボールで33.6%に対し、「知らない」がラグビー35.6%、ハンドボール60.8%となった。昨年、日本代表の活躍で注目を集めたラグビーの方が高い認知度を得ている。ハンドボールは、全試合が熊本で開催されるにもかかわらず6割以上が「知らない」と回答しており、今後の告知や広報等を十分に行う必要がありそうだ(図表3)。



②観戦経験

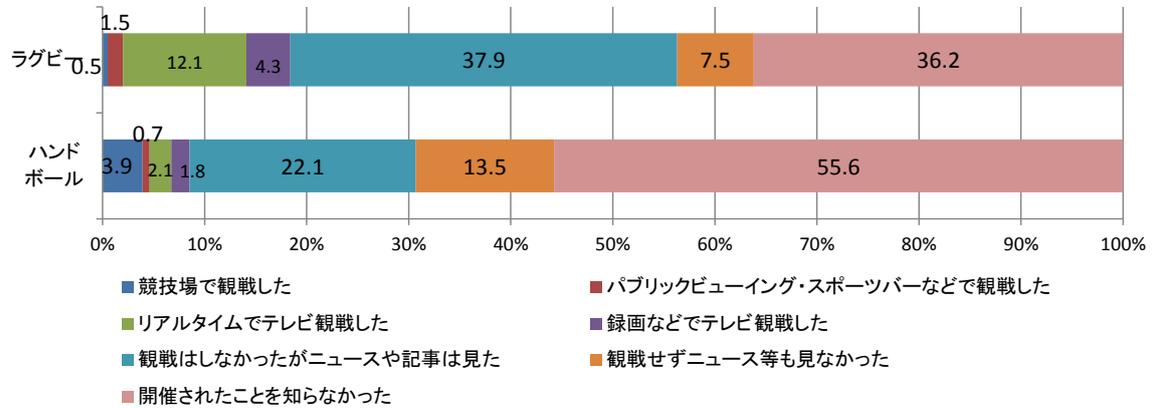
次に、過去の大会(ラグビーは2015年ワールドカップイングランド大会、ハンドボールは1997年男子ハンドボール世界選手権熊本大会)につき、観戦等の経験を尋ねてみた(図表4)。

ラグビーは昨年開催されたこともあり、テレビ等を含め何らかの形で観戦した人が18.4%、ニュースや記事などを見た人が37.9%で合計56.3%の人が、観戦またはニュースなどを視聴していた。

一方、ハンドボールが開催されたのは20年近く前のことであるが、テレビ等を含め何らかの形で観戦した人が8.5%、ニュースや記事などを見た人が22.1%となり、合計30.6%の人が観戦またはニュースなどを視聴していた。

ただ、「開催されたことを知らなかった」という人もラグビーで36.2%、ハンドボールで55.6%存在しており、大会開催の周知は重要な課題と思われる。

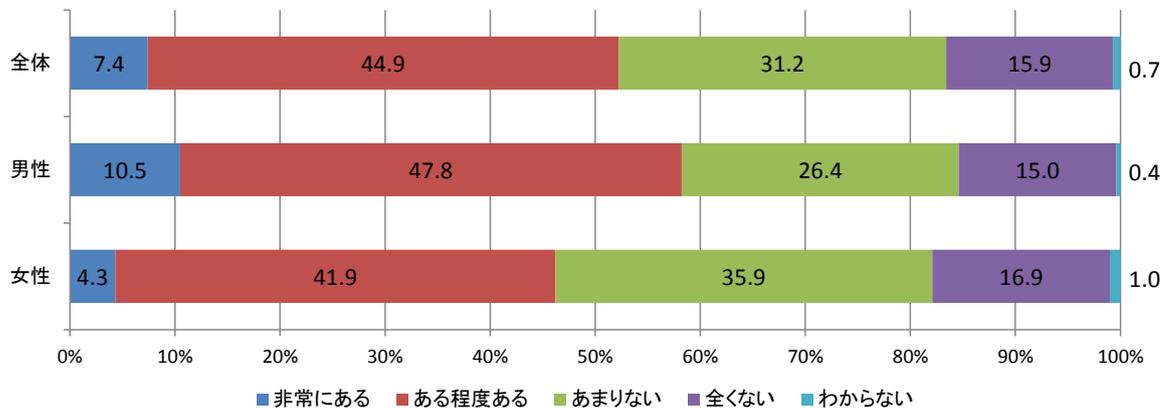
図表4 観戦経験



③興味・関心の有無

このようなスポーツイベントに興味・関心があるかとの問いには、「非常にある」が7.4%、「ある程度ある」が44.9%で、過半数がどちらかといえばあるとの回答であった。なお、男女別にみると男性の方が興味・関心が高かった（図表5）。

図表5 興味・関心の有無

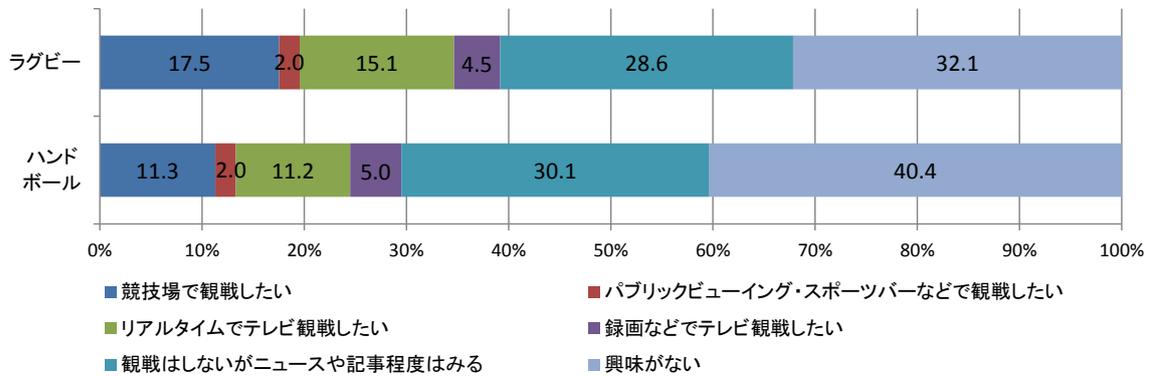


(2) 観戦意向と実施の影響

①観戦意向

実際に熊本でスポーツイベントが開催された場合に観戦したいか否かを尋ねてみたところ、ラグビーは「競技場で観戦したい」17.5%を含め、何らかの形で観戦したいと考えている人が39.1%となり、ハンドボールは「競技場で観戦したい」11.3%を含め、何らかの形で観戦したいと考えている人が29.5%となった(図表6)。過去の大会の観戦経験からすると割合は高くなっており、地元で開催されるためか観戦意向が高いようだ。

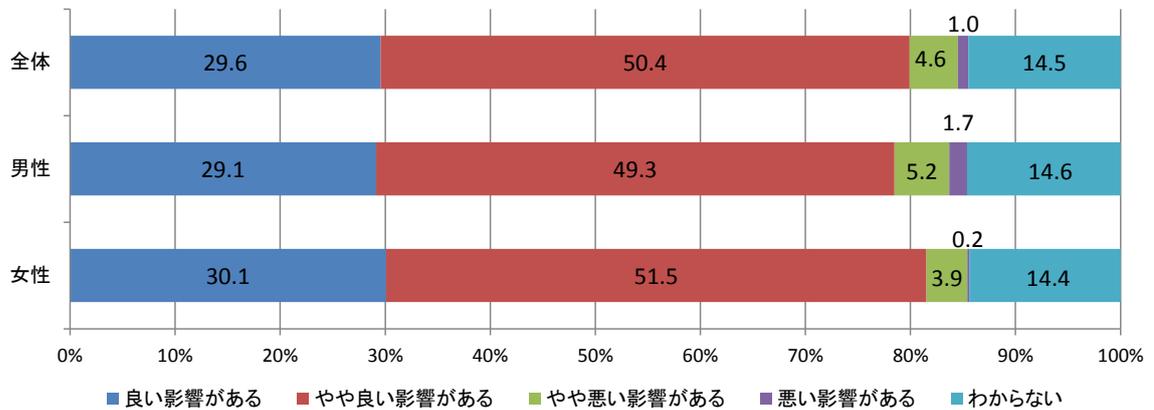
図表6 観戦意向



②実施の影響

熊本で、このような国際的スポーツイベントが実施されると何か影響があるか、との問いには、「良い影響がある」29.6%、「やや良い影響がある」50.4%となり、どちらかといえばよい影響があると考える人は80%に達している。一方で「悪い影響がある」は1.0%「やや悪い影響がある」は4.6%となり、合計で5.6%にとどまった。(図表7)。

図表7 実施の影響

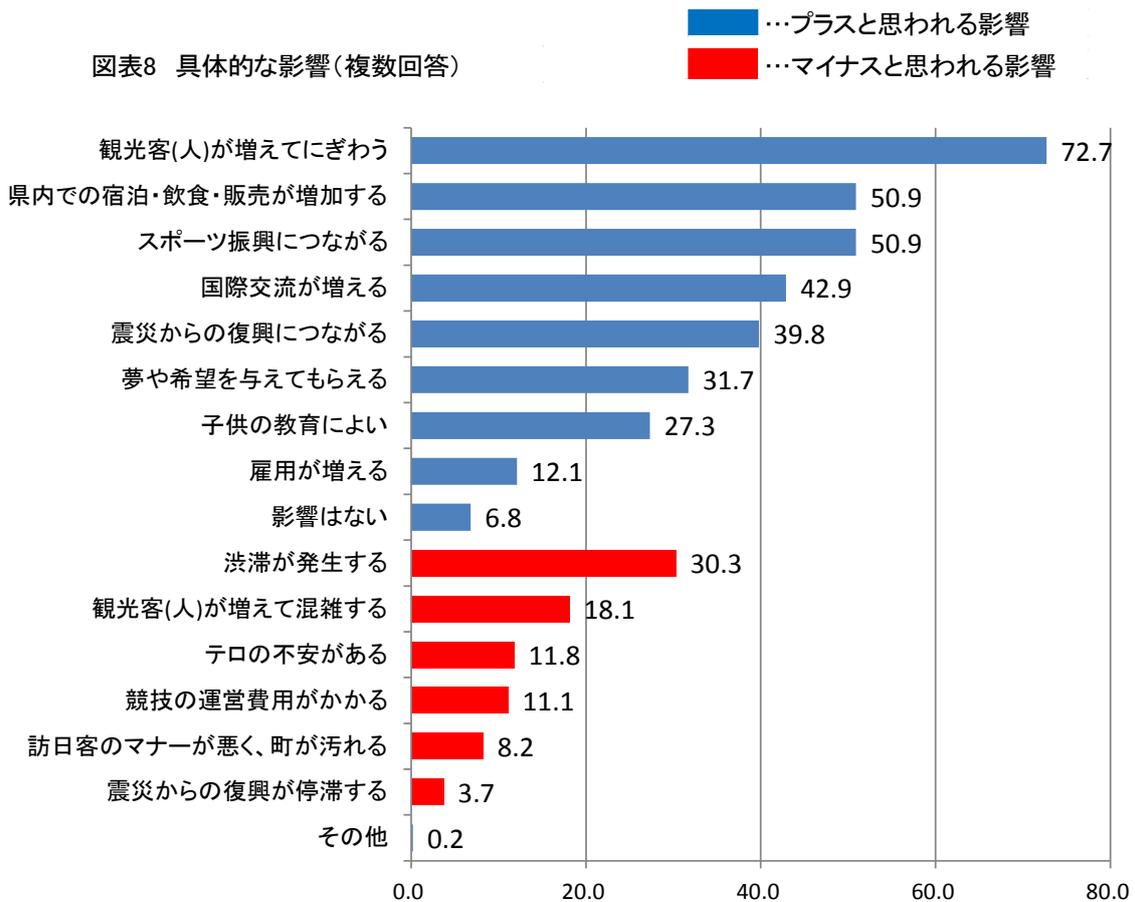


③具体的な影響

では、具体的にどのような影響があると考えているのだろうか。最も多かった回答が「観光客が増えてにぎわう」の72.7%であった。大きなイベントが開催されて、たくさんの人が訪れることを期待していることがうかがえる。次に多かったのが、「県内での宿泊・飲食・販売が増加する」、「スポーツ振興につながる」でともに50.9%となっている。当然ながら、たくさんの人が訪問すれば消費が発生するため、観光客への期待も大きいと思われる。また、このようなイベントを機会にスポーツ振興につながることも望んでいるようだ。以下、「国際交流が増える」42.9%、「震災からの復興につながる」39.8%、「夢や希望を与えてもらえる」31.7%と続いている（図表8）。

また、この選択肢にはマイナスの影響も選択肢として準備した。マイナスの影響の主な回答として「渋滞が発生する」30.3%、「観光客が増えて混雑する」18.1%などがあつた。

国際的スポーツイベントの開催に関しては、どちらかといえば良い影響を考える人が多く、前向きな姿勢がうかがえた。

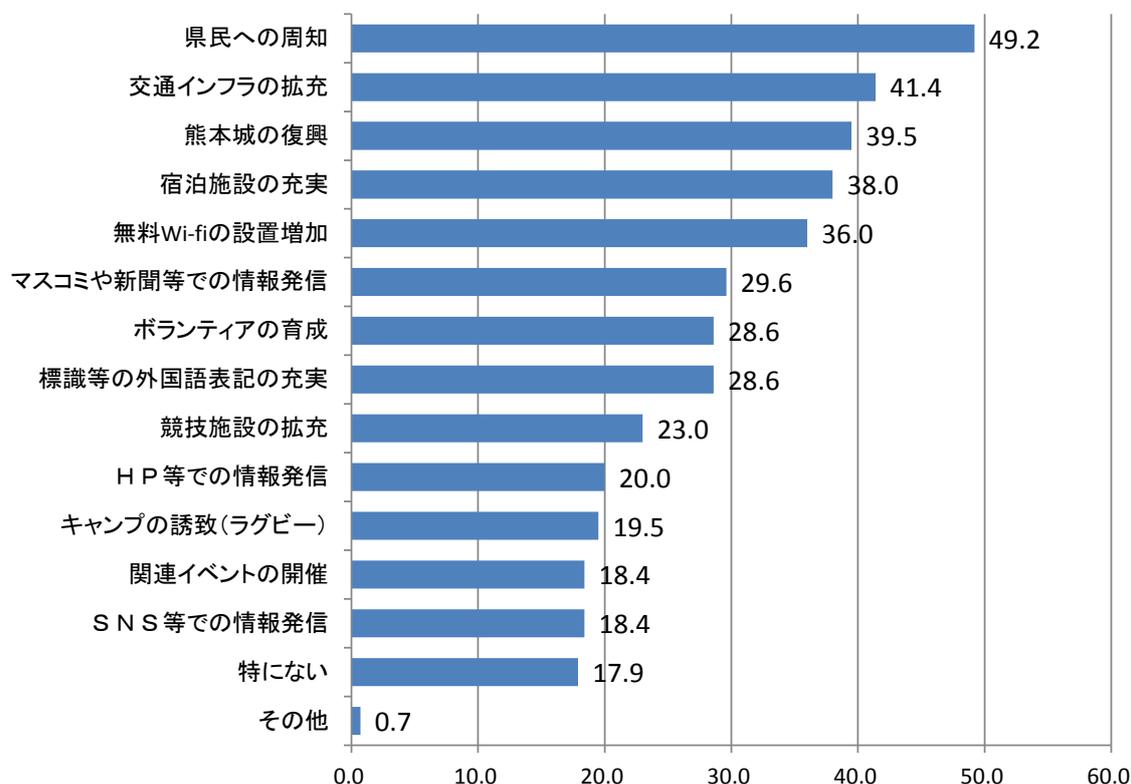


(3) 開催に当たっての準備等

① 県などが準備した方が良いと思うこと

開催に当たって県などが準備した方が良いことに関して尋ねたところ、最も多かった回答が「県民への周知」(49.2%)であった。熊本地震発生後は情報発信も抑えがちなため、大会に関する報道も減少していたためと思われる。今後は3年後の開催に向けて県民全体に対し一層の周知が必要であろう。次いで「交通インフラの拡充」(41.4%)、「熊本城の復興」(39.5%)と続いている。震災等による道路等の被害もまだ本格的な復旧に至っていない所が多く、まずは被災からの復旧を急ぐ必要があるようだ。また熊本城に関しては、熊本市・熊本県は復興のシンボルとして本大会までに天守閣を再建する方針を固めており、回答者の関心も高かったと思われる。次に「宿泊施設の充実」(38.0%)や、「無料Wi-fiの設置増加」(36.0%)となっている。無料Wi-fiの設置などは外国人観光客が訪問する際に特に重視するといわれており、一層の増設が望まれる。全てを一気に充実させることはできないが、優先順位を決めたうえで計画的な整備が必要であろう。また、近年のイベント等では情報発信が重要視されているが、本アンケートでは「マスコミや新聞等での情報発信」が29.6%、「HP等での情報発信」が20.0%、「SNS等での情報発信」は18.4%という結果となっており、情報発信に関しては全体的に下位となっている(図表9)。

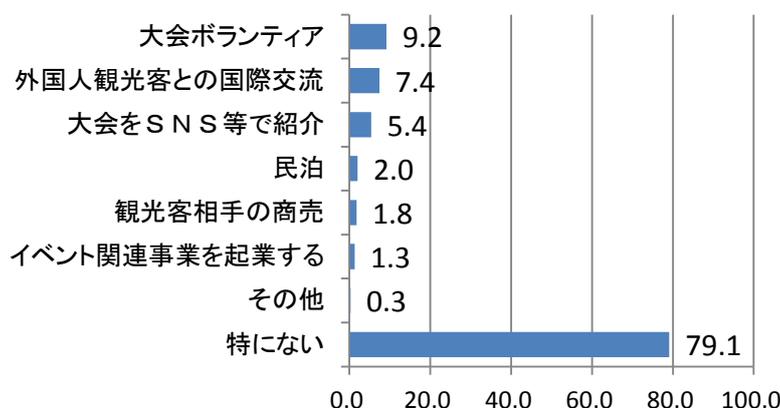
図表9 開催に当たって県などが準備した方が良いと思うこと
(複数回答)



②開催時に自分で行いたいこと

次に、大会開催時に自分で行いたいことはあるかとの質問に対しては「特にない」が79.1%で最も多かった。そのほかでは「大会ボランティア」が9.2%、「外国人観光客との国際交流」が7.4%となっている。この結果を見ると、現状では大会への積極的な関与や、交流等への意欲は薄いようだ（図表10）。事務局は、大会をどのように実施・運営していくかを早急に周知し、その過程で県民一人一人がどこに関われるかを示す必要がある。それにより、ボランティア等への参画意識も高まると思われる。

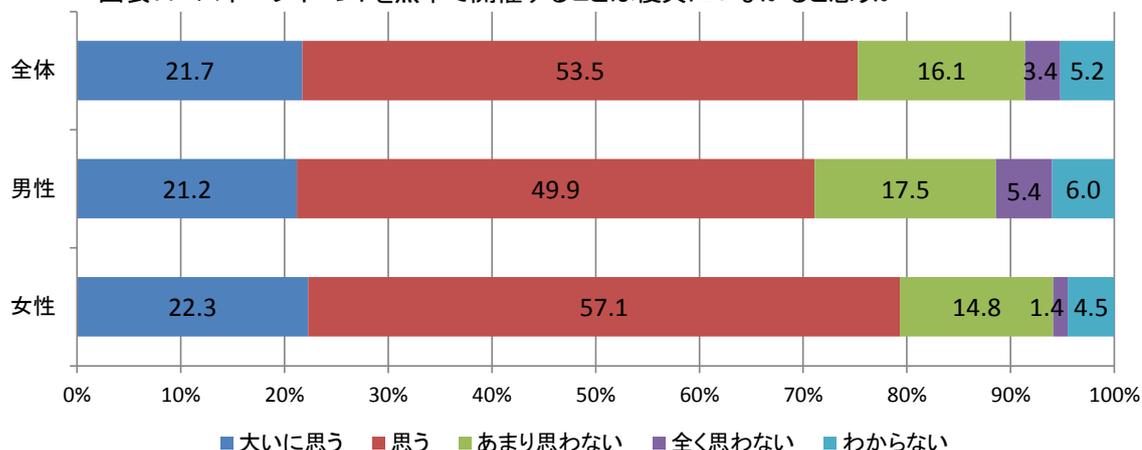
図表10 開催時に自分で行いたいこと



③スポーツイベントと熊本の復興

最後に、このような国際的スポーツイベントを熊本で開催することは、震災からの復興につながると思うか尋ねたところ、「大いに思う」が21.7%、「思う」が53.5%、合わせて75.2%が肯定的な回答となった。「あまり思わない」は16.1%、「全く思わない」は3.4%であった。大会に興味・関心があると回答したのはほぼ半数であったが、ここでは全体の4分の3が肯定的に回答しており、国際的スポーツイベントへの期待が感じられる（図表11）。男女別にみると、女性の方が復興につながると感じる割合が高かった。女性の場合、両イベントに対しての興味は低めだが、開催が復興につながることは前向きにとらえている人が多い。

図表11 スポーツイベントを熊本で開催することは復興につながると思うか



5. 大会開催への課題と取組み

本レポートのまとめとして、大会を前に考えておかななくてはならない課題について検討してみる。

①大会の周知

まず、「ラグビーワールドカップやハンドボール世界選手権大会が開催されることを知らない人」が多いことがあげられる。アンケート結果からは、ラグビーで 35.6%、ハンドボールでは 60.8%の人が、大会の開催を知らないと回答している。もちろん、開催が近づくに従い告知も増えてくると思われるが、大会を盛り上げるためには、より早い時期からのアナウンスが必要である。県民へ大会の歴史や詳細な内容を告知することにより、大会への興味も増すと思われる。テレビや新聞等による告知などに加えて、中心商店街や駅・空港などで継続して長期間にわたり情報を発信し続ける取り組みも必要と思われる。アンケートでも「開催にあたって県などが準備した方が良いこと」での回答は、「県民への周知」が1位となっており、回答者も周知不足と考えているようである。

②情報発信

次に県外・国外への情報発信があげられる。これにより、来熊客や訪日客の増加が見込まれる。近年は熊本へもアジアをはじめとする外国からの観光が増加している。しかし、ラグビー・ハンドボールは特に欧州やオセアニアなどで人気の競技であり、これまでの訪日客とは異なる対象に「熊本」を知ってもらおう絶好の機会となる。外国人に対しては Facebook や twitter 等による告知などが、より有効と思われる。

③熊本の復興へのつながり

また、このスポーツイベントが震災からの復興につながるようにすることも必要である。アンケートでも「大会開催は復興につながると思う」との回答が7割以上あり、復興への期待は大きい。大会に関して蒲島熊本県知事は「県民に夢や希望、元気を与えられる大会にしたい。熊本地震の震災復興の目標地点として、県民と一体でビッグイベントに取り組みたい」とコメントしている。

スポーツが被災した人々へ影響を与えた例として、東日本大震災の後、2011年になでしこジャパンがワールドカップで優勝したことや、2013年に東北楽天イーグルスが日本一になったことなどがあげられる。これらはいずれも、チーム（選手）が被災した人々を元気づけるという形であった。

しかし、大会を震災からの復興につなげるには、被災者（県民）自らが復興した姿を、来訪者をはじめ全国に示す必要があると思う。

現在、この大会を担当しているのは、県、市、スポーツ団体協会の窓口を一元化した熊本国際スポーツ大会推進事務局である。同事務局は2016年4月、県庁内に新設され、女子ハンドボール世界選手権やラグビーワールドカップ2019の開催準備、さらに東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ誘致などを行うことになっている。

発足後、すぐに熊本地震が発生したため、本格的な活動はこれから開始することだ。

ここで、事務局に検討してもらいたいのは、県民参画型のイベントとして大会を開催することである。1997年男子ハンドボール世界選手権大会開催の経験を生かし、県民が一丸となれるようなイベント・キャンペーンの実施を期待したい。大会に自分たちが参加、協力することによって、より思い出に残る、そして達成感のある大会となる。そうなったとき、私たちは復興した熊本の姿を、全国のそして世界の人に見てもらいたいと思うのではなかろうか。それが、熊本の魅力をアピールすることにもつながってくる。

開催まであと3年、県民全員の方で大会を成功させたと言えるようになるには、まず自ら大会を楽しむ気持ちを持つことが何より大切である。アンケート結果からは、熊本地震を経験したにもかかわらず、国際的なスポーツイベントが地元で開催されることに対して、前向きにとらえている人が多いことに勇気づけられた。この気持ちを持ち続けるとともに、まず多くの人に大会のことを知ってもらい、大会への参画等を通して記憶に残る大会にしてもらいたい。

以 上